

「フクロウの産卵を確認 (3)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

ニワトリやシジュウカラは、ほぼ毎朝産卵するが、フクロウの産卵は2~3日おきのことが多い。



3月30日の23:50、卵はまだ1個だった。3月下旬とは言え、外気温は4.7℃とかなり寒い。それでも親鳥は抱卵しないこともある。フクロウはたとえ営巣中でも、夜間に狩りに出かけるのだ。おかげで、卵の数を確認することができた。



その後、午前1時頃に巣に戻ってきた親鳥は、未明までずっと抱卵していた。今回の観察で気づいたことが2つある。一つは夜間の抱卵中も、親鳥はほとんど眠らないこと。もう一つは、産卵前の1時間ぐらいは、ほとんど剥製のように動かないことだ。動画で見ると、産卵の直前に翼を広げたり、体全体を反らすような行動が見られることもわかった。



親鳥は産卵直後に巣から出ていく。3月31日午前4時30分、2卵目を確認できた。フクロウは一回の営巣で、通常2~3卵を産むので、順調である。



フクロウはカラ類(例えばシジュウカラ)とちがって、明確な産座を造らない。今回はムササビが持ち込んだ巣草にフクロウ自身が小石を混ぜて、浅い産座を造って、そこに産卵している。



親鳥は、日に何度か「転卵」をする。卵の位置や向きを変える行動である。この日も位置が変わっていた。